報告事項（１）

６月定例教育委員会　資料	
令和元年６月２８日	
担当課	各　課　等

６月定例市議会一般質問教育長・副教育長答弁要旨について

【一般質問】

〔議員名 会派〕		〔担当課〕	〔ページ〕
岡田　信俊	会派新生	学校教育課	1～2
太田　　縁	無所属	生涯学習・スポーツ課	3
浅野　博文	公明党	学校保健給食課	4
上杉　栄一	会派新生	生涯学習・スポーツ課	5
秋山　智博	会派未来ネット	学校教育課	6
足立　考史	無所属	学校保健給食課	7
朝野　和隆	会派新生	学校教育課	8
星見　健蔵	会派新生	学校保健給食課	9
		学校教育課	10
吉野　恭介	会派新生	学校教育課	11
		生涯学習・スポーツ課	12
加藤　茂樹	会派新生	教育総務課	13
		学校教育課	14
魚﨑　勇	会派新生	学校教育課	15
長坂　則翁	会派未来ネット	生涯学習・スポーツ課	16
米村　京子	会派未来ネット	文化財課	17
勝田　鮮二	会派未来ネット	生涯学習・スポーツ課	18
椋田　昇一	会派未来ネット	学校教育課	19

鳥取市議会〔一般質問〕　教育長・副教育長答弁 対応方針等 概要

市議会名	令和元年６月定例会		
議 員 名	岡田　信俊	担当部局	教育委員会
会 派 名	会派新生	担 当 課	学校教育課
質問・答弁月日	令和元年６月１７日		
質問形態	代表質問　(個別質問)	(登壇)　追及	
質問事項	**１　全国学力・学習状況調査について** **（１）調査の結果と分析について** **（２）分析後の取り組みについてについて**		

【質問要旨】

（その１）平成３０年度の全国学力・学習状況調査の結果をどのように受け止めておられるのか。プロジェクトはどのようなものなのか。

【答弁要旨】

（その１）全国学力・学習状況調査の結果につきましては、特に算数・数学において正答率が全国平均を下回っていることや、児童生徒質問紙「算数・数学の勉強は好きですか」に対する肯定的回答が全国平均を大きく下回っていることについて、本市の課題であると考えております。

　そこで、昨年度、算数・数学における「鳥取市学力向上推進プロジェクトチーム」を立ち上げ、学力課題に対する取組を検討・協議してきました。鳥取市教育委員会では、昨年度より学力向上の取組のキーワードとして「魅力と徹底」（魅力ある授業と徹底による基礎学力の習熟による学力向上）を掲げていますが、本プロジェクトチームでは、特に「魅力ある授業づくり」について話し合い、『算数・数学の「楽しい授業」ポイント』を作成しました。

　今年度は、「学力向上推進事業～魅力ある算数・数学の授業実践推進校～」として、全ての中学校区に小学校1校の推進校全１７校と、希望中学校５校を指定し、算数・数学が好きな児童生徒が増加することを成果指標として、この『ポイント』を活用した魅力ある授業づくりを進めています。また、その成果を本プロジェクトチームで検証する予定にしています。

【対応方針・進捗状況】	検討中	(対応中)	対応済

◆ **対応方針**

◆ **進捗状況**

◆ **報 告 日**　令和元年６月２８日(６月定例教育委員会)

鳥取市議会〔一般質問〕　教育長・副教育長答弁 対応方針等 概要

市議会名	令和元年６月定例会		
議 員 名	岡田　信俊	担当部局	教育委員会
会 派 名	会派新生	担 当 課	学校教育課
質問・答弁月日	令和元年６月１７日		
質問形態	代表質問　(個別質問)	登壇	(追及)
質問事項	１　全国学力・学習状況調査について （３）全国学力・学習状況調査以外の標準学力調査等について		

【質問要旨】

（追及１）本市でも標準学力調査等、何らかの調査を実施してほしいが、それに対する考え方を尋ねる。

【答弁要旨】

（追及１）全国学力・学習状況調査は、小学校６年生と中学校３年生（義務教育学校では６年生と９年生）を対象としています。その他の学年の学力や学習状況について、市全体の実態や課題を把握し、学力向上の取り組みにつないでいくことは大事なことだと考えます。

現在、各学校では、学校の実態や必要に応じて業者作成のテストや自作テスト等で単元ごとや学期ごとにテストを実施することで成果や課題を把握し、学力向上の手立て等を考え、取り組んでおります。

実施にあたっては、効率的で効果的な学力調査等となるべく、経費も含めて今後検討してまいります。

【対応方針・進捗状況】	(検討中)	対応中	対応済

◆ **対応方針**

◆ **進捗状況**

◆ **報 告 日**　令和元年６月２８日(６月定例教育委員会)

鳥取市議会〔一般質問〕　教育長・副教育長答弁 対応方針等 概要

市議会名	令和元年６月定例会			
議 員 名	太田　　縁		担当部局	教育委員会
会 派 名	無所属		担 当 課	生涯学習・スポーツ課
質問・答弁月日	令和元年６月１７日			
質問形態	代表質問	個別質問	登壇	追及
質問事項	１ 地域資源を活かしたまちづくり （4）昭和６０年わかとり国体開催が鳥取市にもたらしたもの （5）地域資源となるスポーツ施設の条件			

【質問要旨】

（追及４）昭和６０年わかとり国体開催が鳥取市にもたらしたものは大きい。鳥取市ではどんな種目が実施されたのか。
（追及５）当時、わかとり国体の成功に向け取り組んだ経験は、鳥取市の地域資源の一つとなっている。国体が果たした成果について、どう考えているのか所見をうかがう。
（追及６）わかとり国体の時に整備された千代テニスコートは中国地方でも珍しいクレイコートを１２面も備えるテニス場であり、プレイヤーからの評価は高い。この地域資源の千代テニスコートを今まで以上に利用者の意見を取り入れながらいろいろな角度からのアプローチを検討していくことが地域資源を活かしたまちづくりにつながると考えるが、所見をうかがう。

【答弁要旨】

（追及４）旧市域では陸上、クレー射撃、剣道、バスケットボール成年男子女子、ライフル射撃、軟式野球、体操、軟式テニス、旧国府町ではバスケットボール少年女子、旧福部村では銃剣道、旧河原町ではフェンシング、旧気高町ではバスケットボール少年男子、旧青谷町では卓球というように合計13種目が実施されました。
（追及５）わかとり国体の開催は、行政主導から官民協働といった取組の転換期となった大会であったと考えます。当時は花いっぱい運動として住民と一緒になり街中にプランターを設置したり、県内に宿泊施設が少なかったため民泊をすすめ選手関係者等をもてなしました。児童生徒も式典にアトラクションとして参加する機会を通じて、住民を上げて取り組む姿から故郷を大切にする心を学んだことと思います。また、県においては布勢陸上競技場、本市では美保球場や千代テニスコート、トレーニングセンター等を新設したことで、競技人口の増加の一端を担いましたし、当時の競技者が後進の育成に当たる等、現在の本市のスポーツ振興に寄与しています。このように当時、取り組まれたハードとソフトの両面が、本市の地域資源になっていると考えます。
（追及６）スポーツ自体やスポーツ施設を地域資源ととらえ、地域の活性化につなげていく取り組みは、近年、盛んになってきています。プロスポーツチームであるガイナーレ鳥取、体育施設を活用したスポーツコンベンションの誘致など、地域資源を活用し、まちづくりにつなげている一例と言えます。ハイレベルな試合を間近で観戦することが、競技レベルの向上や競技人口の増加だけでなく、まちの経済効果を高めたり、賑わい創出にも繋がっています。　みなさんに親しまれ、支えていただけるスポーツに育てることが、地域資源といえるスポーツであると考えますので、競技団体や専門的な知見を有する有識者、さらには市民のみなさんのご意見を伺い、今後のスポーツ振興に取り組みたいと考えます。

【対応方針・進捗状況】	検討中	対応中	対応済

◆ **対応方針**

◆ **進捗状況**

◆ **報 告 日**　令和元年６月２８日(６月定例教育委員会)

鳥取市議会〔一般質問〕　教育長・副教育長答弁 対応方針等 概要

市議会名	令和元年６月定例会			
議 員 名	浅野　博文		担当部局	教育委員会
会 派 名	公明党		担 当 課	学校保健給食課
質問・答弁月日	令和元年６月１７日			
質問形態	代表質問	個別質問	登壇	追及
質問事項	**交通安全対策について** **（２）通学路の安全確保について**			

【質問要旨】

（追及３）

小中義務教育学校の通学路安全点検の実施状況とそれを受けての要望・対策についての実績を尋ねる。

【答弁要旨】

（追及３）

平成２４年に京都府亀岡市で発生した児童ら１０人が死傷した交通事故を機に、本市では、毎年、学校、ＰＴＡ、地域関係者、警察、道路管理者、教育委員会事務局等が一堂に会して、通学路上の危険箇所を合同で点検しています。この合同点検の結果に基づき、道路管理者や警察などが主体となり、歩道設置等の道路施設の整備、一時停止等の交通規制などの安全対策を講じています。あわせて、学校では、児童生徒への通学指導を行い通学時の安全確保に努めています。

平成２４年度から平成３０年度までの７年間で、延べ８６０箇所の危険箇所を洗い出し、対策が必要な箇所として７８７箇所を選び、昨年度末までに６９６箇所で対策を実施済みとしています。これは、進捗率にして８８．４４％となっています。

平成３０年度は、合同点検を７０箇所で実施し、６４の安全対策が必要とされましたが、平成３０年１２月末までに約４４％の２８の対策が実施済みです。残りについても継続して対策に取り組まれているところです。

今年度は、５月末までに各小中義務教育学校から新たに危険と思われる箇所の報告を受けており、７月から８月に合同点検を実施することとしています。

【対応方針・進捗状況】	検討中	対応中	対応済

◆ **対応方針**

◆ **進捗状況**

◆ **報 告 日**　令和元年６月２８日(６月定例教育委員会)

鳥取市議会〔一般質問〕　教育長・副教育長答弁 対応方針等 概要

市議会名	令和元年６月定例会		
議 員 名	上杉　栄一	担当部局	教育委員会
会 派 名	会派新生	担 当 課	生涯学習・スポーツ課
質問・答弁月日	令和元年６月１７日		
質問形態	代表質問　(個別質問)	登壇	(追及)
質問事項	**1 観光振興に関連して「鳥取砂丘西側エリアの整備について」** **(6)サイクリングターミナル・柳茶屋キャンプ場について**		

【質問要旨】

（追及２）西側ＷＧの意見で、市が運営するサイクリングターミナルと柳茶屋キャンプ場について、「ビジネスベースでの民間活力の導入」が提案されているが、それぞれの今後の施設運営の方向性をどう考えるか尋ねる。

【答弁要旨】

（追及２）「サイクリングターミナル砂丘の家」は昭和53年4月に開設して以来、広く市民に利用されてきました。過去５年間の宿泊者数は年平均約4,301人となっており、小中学校の宿泊学習、サークル活動、合宿、自治会のほか、企業研修にも活用されています。開設から41年を経過して老朽化が目立ってきたこと、定員に対する施設稼働率が15パーセント前後であることを踏まえ、社会教育施設としてのニーズやワーキンググループでの「ビジネスベースでの民間活力の導入」といった意見も視野に入れながら、検討を重ねてまいります。

【対応方針・進捗状況】	(検討中)	対応中	対応済

◆ **対応方針**

◆ **進捗状況**

◆ **報 告 日**　令和元年６月２８日(６月定例教育委員会)

鳥取市議会〔一般質問〕　教育長・副教育長答弁 対応方針等 概要

市議会名	令和元年６月定例会			
議 員 名	秋山　智博		担当部局	教育委員会
会 派 名	会派未来ネット		担 当 課	学校教育課
質問・答弁月日	令和元年６月１８日			
質問形態	代表質問	個別質問	登壇	追及
質問事項	１　市民の交通安全について （６）小・中学校の交通安全について			

【質問要旨】

（追及１４）第１０次鳥取市交通安全計画に「段階的かつ体系的な交通安全教育の推進」とあるが、本市の小・中・義務教育学校では、交通安全教育がどのように行われているのか、教育長に伺う。
（追及１５）特に自転車の安全利用について、小・中・義務教育学校ではどのような取り組みが行われているのか、教育長に伺う。

【答弁要旨】

（追及１４）本市の小・中・義務教育学校では、発達段階に応じた交通安全教育を進めております。その実施にあたっては、参加・体験・実践型の学習を積極的に取り入れ、地域の交通安全団体、警察等の関係機関から指導者を招いて交通安全教室等を実施しております。
　具体的には、車道を横断する際の危険予測や安全確認の方法を学び、実際に校外で通学路を歩きながら危険個所の確認などを行っています。
　今後も、地域や関係機関と連携・協力を図りながら、効果的な交通安全教育を推進していきたいと考えております。
（追及１５）多くの小学校では、子どもたちが自転車を校区内で安全に利用するために、警察等の関係機関や交通安全指導員、地域のボランティアの協力を受けながら、実際に自転車に乗って、交通ルールの確認や危険予測について学習しています。
　中学校では自転車通学生を対象に、自転車の安全点検や通学路における危険箇所の確認などを通して、年度初めに交通安全指導を実施しています。
　また、すべての学校で、長期休業前には、自転車の二人乗りや並進の禁止、左側通行、ヘルメットの着用など、道路交通法に定められているルール等を守るよう、文書を配布して指導し、保護者とも連携して事故の未然防止に努めております。

【対応方針・進捗状況】	検討中	対応中	対応済

◆ **対応方針**

◆ **進捗状況**

◆ **報 告 日**　令和元年６月２８日(６月定例教育委員会)

鳥取市議会〔一般質問〕　教育長・副教育長答弁 対応方針等 概要

市議会名	令和元年６月定例会			
議 員 名	足立　考史		担当部局	教育委員会
会 派 名	無所属		担 当 課	学校保健給食課
質問・答弁月日	令和元年６月１８日			
質問形態	代表質問	個別質問	登壇	追及
質問事項	**安心・安全な学校給食の提供について** **（１）基本構想１０カ年計画が終了するに当たっての総括、総評について** **（２）次期基本構想について** **（３）施設・設備の老朽化対策について** **（４）調理員の雇用について**			

【質問要旨】

（登壇）
①第１期「鳥取市の学校給食の基本構想」（平成２０年３月から向こう１０年間）の総括総評を尋ねる。
②令和２年度で全ての学校給食センター調理業務委託契約が満了するが、次期基本構想における調理業務の方針について尋ねる。
（追及１）
調理員は、受託業者が変わる度に雇用主が変わり、雇用不安・生活不安に陥ると訴えている。こうした職場には、募集をしても人が来ない。学校給食の提供には十分な人材が必要だが、人材確保に苦慮している現実をどう捉えているか尋ねる。
（追及２）
調理業務の民間委託を進めるならば、地元企業を優先し、調理員が安心して働ける職場を再考するべきと考えるが、所見を尋ねる。
（追及３）
築３０年以上など老朽化している学校給食センターについて、設備も含め早期改善が必要と考えるが、どのように対策を講じようとしているか尋ねる。

【答弁要旨】

（登壇）
平成２０年３月に策定した基本構想は、学校給食のあり方、食育の推進に加え、学校給食センターの統廃合、調理業務の民間委託について策定し、順次、学校給食の調理業務の民間委託を進めてまいりました。調理業務の委託については、安全でおいしい給食の提供、業務効率の向上、栄養教諭等による食指導の充実に加え、他業者との競争の中でより良い学校給食を提供しようとする意欲の向上、衛生管理の向上などが見られたという、一定の評価をしています。
次期基本構想の策定に当たり、平成３１年３月より「鳥取市学校給食検討委員会」を設置し、現在検討を行っているところです。調理業務の方針に関しては、今後作成するこの基本構想に盛り込むこととしていますが、これまで通り民間委託を基本としつつ、より良い給食の提供となるよう、民間活力導入の可能性などサウンディング調査の結果も踏まえ、検討したいと考えています。
（追及１）
仮に業者が変わっても、調理業務を円滑に行うため、また地元雇用の観点などから雇用が続いている実態があります。また、調理員を募集しても中々応募が無いと業者が苦慮していることも承知しています。この度、サウンディング調査を行うこととしていますので、人員確保についても有効な方策が無いか、業者の意見を聴いてみたいと考えています。
（追及２）
地元企業を大切にする観点は重要であると認識していますし、安全でおいしい学校給食を安定的に提供することも重要なことです。教育委員会では、鳥取市外部委託方針に沿って、競争性・透明性・公平性を確保しながらプロポーザル方式で業者選定を実施したいと考えています。その中で、安心して働ける職場という観点については、プロポーザルの中で雇用の継続と地元採用計画などの提案内容で評価していきたいと考えます。
（追及３）
現在、一番古い施設は、昭和６３年に建設され、３１年を経過しています。その他にも３０年以上の施設が２施設あり、施設の修繕や設備の更新など緊急性や必要性を考慮しながら調理業務に支障がないようこれまで対応をしています。給食センターの耐用年数は例えば鉄筋コンクリート造で４１年とされており、給食設備の老朽化、時代遅れで効率が悪くなってきています。現在、基本構想を改訂し、これを年内にまとめることとしていますが、給食センターの整備については、別途具体的に計画を策定していく予定です。

【対応方針・進捗状況】	検討中	対応中	対応済

◆ **対応方針**

◆ **進捗状況**

◆ **報 告 日**　令和元年６月２８日(６月定例教育委員会)

鳥取市議会〔一般質問〕　教育長・副教育長答弁 対応方針等 概要

市議会名	令和元年６月定例会			
議 員 名	朝野　和隆		担当部局	教育委員会
会 派 名	会派新生		担 当 課	学校教育課
質問・答弁月日	令和元年６月１８日			
質問形態	代表質問	個別質問	登壇	追及
質問事項	１　中核市・連携中枢都市圏について （３）連携中枢都市圏での学童保育について			

【質問要旨】

（追及２）圏域町内の学校に通う児童の保護者から、本市の放課後児童クラブを利用したいという声を聞いている。連携中枢都市圏で様々な事業に取り組んでおられるが、放課後児童クラブについて、子育ての支援という観点から、圏域の町と連携し、本市の放課後児童クラブで受け入れをしてはどうかと考えるが、教育長の所見を尋ねる。

【答弁要旨】

（追及２）本市の放課後児童クラブのニーズは依然として高く、その背景には保護者の就労形態の多様化もあると認識しています。議員のおっしゃるとおり、連携中枢都市圏域の１市５町においても、保護者の就労形態や就労場所等はさまざまであると考えます。圏域の町と連携した放課後児童クラブについては、今後、利用者等のニーズやどのような連携ができるのかなどを研究していきたいと考えています。

【対応方針・進捗状況】	検討中	対応中	対応済

◆ **対応方針**

◆ **進捗状況**

◆ **報 告 日**　令和元年６月２８日(６月定例教育委員会)

鳥取市議会〔一般質問〕　教育長・副教育長答弁 対応方針等 概要

市議会名	令和元年６月定例会			
議 員 名	星見　健蔵		担当部局	教育委員会
会 派 名	会派新生		担 当 課	学校保健給食課
質問・答弁月日	令和元年６月２１日			
質問形態	代表質問	個別質問	登壇	追及
質問事項	**食育について** **（３）食事に対する時間が十分とられているのか** **（４）栄養教諭について**			

【質問要旨】

（追及２）
　児童生徒は身体をつくる重要な時期でもあり、しっかり噛んで、残さず食べることが重要と考える。本市の小中義務教育学校の食事にかけられている時間はどの程度なのか、十分な時間がとられていると考えるか、所見を尋ねる。
（追及３）
　鳥取市では、８つの学校給食センターで５８校・約１６，５００食の給食を提供している。センターの職員のうち、栄養教諭は全８センターを通じて１人となっているが、１人で十分と考えているか、所見を尋ねる。

【答弁要旨】

（追及２）
　給食時間は準備の時間、実際に食事をする喫食時間、片付けの時間の３つに分けられます。
　本市の小学校及び義務教育学校の前期課程の給食時間は準備、片付に２０分から２５分、食事をする時間は、２０分から２５分となっています。その中でも１年生など低学年については、早めに給食の準備を始めるなどして、実際の食事時間をできるだけ確保するように努めています。また、中学校及び義務教育学校の後期課程については、準備、片付に２０分から３０分、食事時間は、１５分から２０分となっています。
　学校給食の時間は、各学校で定めていますが、クラスや子どもの実態に合わせて柔軟な対応をすることで、適切な給食時間となるよう努めているところです。
（追及３）
　栄養教諭は、学校における食育の推進に中核的な役割を担っており、学校給食の管理はもとより、学校の食育に関する全体計画を作成するなど、児童生徒の栄養の指導及び管理をつかさどっています。同じような食として、学校栄養職員がありますが、本市には本年度１４名が配置されており、栄養教諭と違って、主に学校給食の管理を本務としており、職務内容や職務上の責任、必要な資質が異なるものです。
　栄養教諭は、鳥取県教育委員会が配置しており、現在、県内の栄養教諭は１自治体１名の配置としていることから、本市においても１名のみの配置となっています。
　しかし、本市は、県内でも給食センター数、食数ともに多い状況であること、栄養教諭の基本的な役割に加えて、市全体の学校給食における食物アレルギー対応、衛生管理対応等に関わる機会も多いことから、1名の栄養教諭の配置では十分ではないと考えています。このため、県に対し自治体の規模に応じた栄養教諭の適正な配置を要望しているところです。

【対応方針・進捗状況】	検討中	対応中	対応済

◆ **対応方針**

◆ **進捗状況**

◆ **報 告 日**　令和元年６月２８日(６月定例教育委員会)

鳥取市議会〔一般質問〕　教育長・副教育長答弁 対応方針等 概要

市議会名	令和元年６月定例会			
議 員 名	星見　健蔵		担当部局	教育委員会
会 派 名	会派新生		担 当 課	学校教育課
質問・答弁月日	令和元年６月２１日			
質問形態	代表質問	個別質問	登壇	追及
質問事項	**１　食育について** **（１）欠食の実態について** **（２）食育推進への今後の取り組みについて**			

【質問要旨】

（その２）政府の第三次食育推進基本計画で、朝食を食べない子供の割合をゼロにすることを目指してたが、文部科学省の平成３０年度全国学力・学習状況調査によると、欠食率は５．５％と前年より０．９ポイント増加しており、食生活の乱れが浮き彫りになったと報告されてる。本市の実態と対応策について伺う。
（追及１）農水省が開いた食育推進委員会では、子供の欠食について、親世代の食育の必要性が指摘されている。朝食が用意されていないということは、親も欠食しているということを指摘、農水省と文科省は、今後、学校での働きかけに加え、家庭を巻き込んだ食育に力を入れるとされているが、本市での食育の取り組みについて、教育長に伺う。

【答弁要旨】

（その２）平成３０年度の全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙において、「朝食を毎日食べていますか」について「当てはまらない・どちらかといえば当てはまらない」と回答をした小学生は４．８％で全国とほぼ同じ、中学生は４．７％で全国と比べると３．４ポイント少なくなっています。
　５年間の経年経過を見ますと、小学生については全国とほぼ同じで推移し、中学生については年々全国よりも朝食をとる割合が高くなってきております。
　学校では、小学校１年生保護者への給食試食会と共に栄養教諭・栄養職員による食育講座を設け、家庭での食育の重要性を保護者に考えていただいたり、参観日に食育にかかわる内容の授業を公開後、学年懇談会にて保護者同士で家庭での食育について情報交換をしたりと、朝食をきちんと食べさせることの重要性を保護者に伝えていますが、今後もそのような働きかけに努めてまいりたいと思います。
（追及１）小学校では、学年園や地域の田畑での作物づくり等を行い、自分たちで植えた作物を育て、収穫し、調理して食べる活動を行っています。学校によっては、ＰＴＡ学年行事として保護者と一緒に田植えや稲刈りを行った後、餅つき体験をすることで、その価値や大切さを共に実感する取り組みも行っています。このような活動を通して、育てることの喜びや苦労を体験し、食の大切さを学んでいます。
　また、鳥取市教育委員会では「中山間地域ふるさと体験活動支援事業 」で、子どもたちが佐治地域の民泊受入れ家庭の方々といっしょに夕食や朝食づくり、弁当づくりを体験する中で、子ども自身が食についても関心を持てるようにしております。
　今後も学校と保護者・地域等が連携しながら、体験活動を大事にした食育の推進に努めてまいります。

【対応方針・進捗状況】	検討中	対応中	対応済

◆ **対応方針**

◆ **進捗状況**

◆ **報 告 日**　令和元年６月２８日(６月定例教育委員会)

鳥取市議会〔一般質問〕　教育長・副教育長答弁 対応方針等 概要

市議会名	令和元年６月定例会		
議 員 名	吉野　恭介	担当部局	教育委員会
会 派 名	会派新生	担 当 課	学校教育課
質問・答弁月日	令和元年６月２１日		
質問形態	代表質問　(個別質問)	(登壇)　追及	
質問事項	１　コミュニティスクール（CS）の充実について （１）現状認識について		

【質問要旨】

（その１）本市におけるCSの取り組みの現状と、児童生徒たちの日常生活にどのように影響しているのか、そして、今後の課題をどうとらえているのか尋ねる。
（その２）学校と地域、お互いもっと関係性を近づけたいと考えていると思いますが、本市が主体的に制度運営できる環境なのか尋ねる。
（その３）教職員の多忙感を地域力で削減し、地域は行事等で学校・児童生徒に協力を仰ぎたい狙いがある。そういう部分を相互補完し、学校、地域・両者どちらにもメリットのある制度に向かっての取組にしていきたいと考えます。導入後、３・４年の学校がほとんどですが、現時点での先生方の多忙感・負担感は減少しているのか尋ねる。

【答弁要旨】

（その１）今年度末までのコミュニティ・スクールの導入は、小学校では97.6%、中学校では92.9%、義務教育学校では100%となる予定です。来年度末には、すべての学校でコミュニティ・スクールが導入される見込みです。コミュニティ・スクールの導入によって、各学校、地域の実態に合わせた取組がされています。例えば、あいさつのできる地域にしていきたいと考え、学校運営協議会が中心となって、挨拶運動に取組んだり、挨拶サミットを開催し、児童保護者の意識を高める看板やのぼりを作成するなど、学校、保護者、地域が一体となって取り組んでいる例もあります。また、中学生が、公民館祭などの地域の行事へ積極的に参加し手伝っている例もあります。これらの活動により、学校と地域がお互い顔の分かる関係になり、その距離が少しずつ縮まってきています。
　今後は、目指す子供像の実現に向けて、学校・保護者・地域が目標やビジョンをしっかりと共有することが必要と考えています。
（その２）平成29年の法律の一部改正により、全国的にコミュニティ・スクールの設置が促されましたが、本市では、平成26年度から先進的かつ主体的に鳥取市版コミュニティ・スクールの導入を進めてきました。この法改正後は、コミュニティ・スクールの必要性が地域のみなさんにも広く認知されるようになり、多くの学校でより設置・拡大が進み、地域の実態に応じた運用が行われているところです。
　また、今年度より、コミュニティ・スクールの校長と学校運営協議会の会長の連絡協議会を実施し、鳥取市としてさらに主体的な取組になるよう進めています。
（その３）コミュニティ・スクールの立ち上げ時には、事務的な量も増え、地域との窓口になる教頭・地域連携担当教員などの職員は、負担が増すことはあります。国の調査では、学校、家庭、地域の適切な役割分担により、「教職員が子どもと向き合う時間が確保できることにつながった。学校の現状や運営方針について理解が深まり、地域が学校の応援団となることで教員の負担が減った」という報告もなされています。今後、本市においても、コミュニティ・スクールの制度がうまく運用できるようになれば、より一層多忙感や負担感の軽減にもつながるものと思います。

【対応方針・進捗状況】	検討中	対応中	(対応済)

◆ **対応方針**

◆ **進捗状況**

◆ **報 告 日**　令和元年６月２８日(６月定例教育委員会)

鳥取市議会〔一般質問〕　教育長・副教育長答弁 対応方針等 概要

市議会名	令和元年６月定例会			
議 員 名	吉野　恭介		担当部局	教育委員会
会 派 名	会派新生		担 当 課	生涯学習・スポーツ課
質問・答弁月日	令和元年６月２１日			
質問形態	代表質問	個別質問	登壇	追及
質問事項	１ コミュニティスクール（CS）の充実について (4)地域コーディネーターへの支援について			

【質問要旨】

（追及４）コミュニティ・スクールを成功させるには、学校と地域との要となる地域学校協働活動推進員の存在や働きが重要である。地域学校協働活動推進員として研修や活動に対する金銭的な支援とを行っているのか。また、教育委員会として、今後、この制度を推進していくのか。

【答弁要旨】

（追及４）「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、組織的・継続的に地域と学校が連携・協働していくためには、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な推進が大切です。平成30年度よりモデル地区として美保南校区と湖南校区を選定し「地域学校協働活動推進員」を配置し、活動日数に応じて報償費をお支払いしています。また、研修については、今年度は国県が主催する研修会等への参加旅費を予算化するなど支援に努めています。今後ともコミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な推進の検証をすすめ、多くの校区で地域学校協働活動推進員の導入が進むよう努めていきたいと考えます。

【対応方針・進捗状況】	検討中	対応中	対応済

◆ **対応方針**

◆ **進捗状況**

◆ **報 告 日**　令和元年６月２８日(６月定例教育委員会)

鳥取市議会〔一般質問〕　教育長・副教育長答弁 対応方針等 概要

市議会名	令和元年６月定例会			
議 員 名	加藤　茂樹		担当部局	教育委員会
会 派 名	会派新生		担 当 課	教育総務課
質問・答弁月日	令和元年６月２１日			
質問形態	代表質問	個別質問	登壇	追及
質問事項	**小・中学校のエアコンの設置状況について** **①現状について** **②取り組み状況** **③今後について**			

【質問要旨】

（登壇）これまでの市立学校普通教室への設置状況について伺う
（追及１）設置に向けての現在の取り組み状況について伺う
（追及２）３つの企業体はすべて市内業者か
（追及３）年度内完了に向けての今後の取り組みについて伺う。
（追及４）今後の課題はどのようなことがあるのか伺う。
（追及５）全国一斉の取り組みとなるため、機器の確保について心配しているがどのような状況か。

【答弁要旨】

（登壇）平成３１年４月１日現在の普通教室への空調設置状況につきましては、小学校（義務教育学校を含む）５２９教室中、設置済みは１８教室で設置率は３．４％、中学校１８０教室中、設置済みは８４教室で設置率は４６．７％となっております。
（追及１）本市の小・中・義務教育学校全普通教室への空調設置につきましては、令和元年度中の完成を目指して、３つの工区（ブロック）にわけて整備を進めております。
　具体的には、企業体側でそれぞれの学校施設の状況等を踏まえた設計を行い、その設計内容を市側で精査を行った後に、施工準備が整った学校から順次工事着手するといった流れで進めております。
　なお、７月中には４校で設置完了を見込んでおります。
（追及２）この度の市立学校空調整備事業に関わる企業体につきましては、３工区とも、すべて市内業者で構成されております。
（追及３）６月中には、１工区（１７校）は３校、２工区（１６校）は４校、３工区（２０校）は７校が工事着手する予定ですが、全体的には、秋ごろに施工のピークを迎える見込みです。
（追及４）年度内にすべての学校を完成させるためには、厳しい日程の中で施工を行うこととなりますので、土日での工事や、児童・生徒が居ながらの工事などが必要となり、学校・児童・生徒に負担をかけることとなります。
　そのため、工区ごとに業者と各学校とで綿密にスケジュール調整を行い、それぞれの学校に最適な工程で、かつ児童・生徒の安全に配慮した計画ですすめられているところです。
（追及５）現段階では、本市の空調整備事業において機器が不足しているとの報告は受けておりませんが、今後、工事が集中する時期には、不足することも予測されます。対応としては、速やかに設計を行い、いち早く機器等を発注することが必要と考えております。
　そのため、本市としても、事業者・学校と連携をはかり、速やかな事業進捗に努めたいと考えております。

【対応方針・進捗状況】	検討中	対応中	対応済

◆ **対応方針**

◆ **進捗状況**

◆ **報 告 日**　令和元年６月２８日(６月定例教育委員会)

鳥取市議会〔一般質問〕　教育長・副教育長答弁 対応方針等 概要

市議会名	令和元年６月定例会		
議 員 名	加藤　茂樹	担当部局	教育委員会
会 派 名	会派新生	担 当 課	学校教育課
質問・答弁月日	令和元年６月２１日		
質問形態	代表質問　(個別質問)	(登壇)　(追及)	
質問事項	**１　学校教育以外のクラブ活動について** **（１）現状について** **（２）今後について** **（３）それら活動の評価について**		

【質問要旨】

（その１）中学校・義務教育学校で、生徒は部活動に取り組んでいるが、学校外のスポーツクラブや文化系クラブで活動している生徒も多いと聞いている。教育委員会では学校外でのクラブについて実態を把握しているか、教育長に伺う。
（追及１）各中学校・義務教育学校では、スポーツクラブや文化系クラブに所属している生徒について実態把握をしているか、教育長に伺う。
（追及２）学校外の活動でも生徒たちは頑張っているが、学校が把握していないこともある。今後、学校とスポーツクラブや文化系クラブ等が情報共有することで、今以上に夢や希望に向かって頑張る生徒たちを応援できると考えるが、教育長の所感を伺いたい。

【答弁要旨】

（その１）少子高齢化に伴って、本市においても、１０年前に比べ、中学校・義務教育学校の生徒数が５００人以上減少しており、今後１０年でさらに５００人以上減少する予想となっております。学校の部活動においては、部員数の減少や部活動の休廃部、他校との合同チーム編成など、様々な動きがみられるようになり、今後もそのような動きや時代に合わせて、生徒たちを取り巻く環境が大きく変化すると思われます。このような中、生徒や保護者のニーズが多様化し、今までのように学校の部活動だけでは十分応えることはできない面もあり、校外のスポーツクラブや文化系クラブを選択し活動する生徒も多数おります。しかしながら、教育委員会として、これら校外でのクラブ等について、その数や活動内容、所属の生徒数など、現在のところ実態把握はしておりません。

（追及１）学校外のスポーツクラブや文化系クラブに所属している生徒について、学校は保護者や生徒等から情報を得ることはありますが、全ての生徒についての把握はしておりません。

（追及２）先ほど述べたとおり、学校では生徒や保護者、地域とのつながりの中で、校外での活動について情報を得ることがあります。しかしながら、その活動は多岐にわたり、全てを把握することは難しい現状があります。ただ、今後、学校と地域とのつながりが、より強くなっていく中で、校外の活動で頑張る生徒の様子について、学校が把握する機会も増えていくと思われます。教育委員会としても、校内外の活動に係わらず、夢や希望に向かって努力する生徒たちを、教職員だけではなく、保護者・地域と連携しながら、子どもたちの個性の伸長を支援していきたいと考えています。

【対応方針・進捗状況】	検討中	対応中	(対応済)

◆ **対応方針**

◆ **進捗状況**

◆ **報 告 日**　令和元年６月２８日(６月定例教育委員会)

鳥取市議会〔一般質問〕　教育長・副教育長答弁 対応方針等 概要

市議会名	令和元年６月定例会			
議 員 名	魚﨑　勇		担当部局	教育委員会
会 派 名	会派新生		担 当 課	学校教育課
質問・答弁月日	令和元年６月２１日			
質問形態	代表質問	個別質問	登壇	追及
質問事項	**２　子育て支援について** **（２）特色ある教育施策について**			

【質問要旨】

（追及５）小学校の教育を進めるにあたって、基準となっているものは何か。
（追及６）そのような教育の中で、子どもたちの個性を育むことが重要と考える。様々な子どもたちの個性を生かす教育について教育長の見解を伺う。
（追及７）今後進展するグローバリゼーションの中、児童、生徒の個性を生かした教育がより一層必要になってくると考える。従来行われてきたような教育の目標と相反すると思えるが、この点について、教育長の見解を伺う。

【答弁要旨】

（追及５）小学校の教育を進めるにあたって基準となるものは、「学習指導要領」となります。これは、教育基本法、学校教育法に基づき、学校教育の具体的な内容を系統立てて示したものです。このことにより、全国どこの学校でも一定の水準の教育が行われることとなります。この学習指導要領は、時代の変化や子どもたちの状況に応じて、およそ１０年に１度改正されています。
（追及６）本市では、鳥取市教育振興基本計画において、推進施策の第一に「社会を生き抜く力を育む特色ある教育の推進」を掲げております。具体的には、小中一貫教育による連携や情報共有体制の構築により、子どもたちの思いや願いを含めたよさをきめ細やかに把握し、個性を伸長する体制の充実を図っております。子どもたちには様々な個性がありますが、それを周囲と認め合う中で、改めて自他のよさを自覚し、自己実現への意欲を高め、将来的な展望を持つことができます。
　子どもたちにとって、自分の特徴や特技を知ることは、夢や目標をもち、豊かで、よりよい人生を送るためにも重要と考えております。今後とも、子どもたちの個性を尊重した教育を推進して参りたいと思います。
（追及７）本市では、従来から学習指導要領及び教育振興計画に基づき、児童の発達段階やそれぞれの特性を十分に踏まえるとともに、児童一人一人のよさや可能性を伸ばす指導を心がけて、教育を推進しているところです。グローバル化の進展など教育を取り巻く社会情勢はめまぐるしく変化しており、今後子どもたちが対応していくためには、学力はもとより、集団活動を通して社会性を身につけ、自分の良さや可能性を認識するとともに、他者を尊重することが求められると考えております。
　議員ご指摘の個性を生かした教育を含め、これらに対応した教育がより一層必要となっていくものと考えております。

【対応方針・進捗状況】	検討中	対応中	対応済

◆ **対応方針**

◆ **進捗状況**

◆ **報 告 日**　令和元年６月２８日(６月定例教育委員会)

鳥取市議会〔一般質問〕　教育長・副教育長答弁 対応方針等 概要

市議会名	令和元年６月定例会		
議 員 名	長坂　則翁	担当部局	教育委員会
会 派 名	会派未来ネット	担 当 課	生涯学習・スポーツ課
質問・答弁月日	令和元年６月２１日		
質問形態	代表質問　(個別質問)	登壇	(追及)
質問事項	１ 地区公民館運営に関連して (5)地区公民館の運営形態について		

【質問要旨】

（追及５）地区公民館の運営について、松江市や倉吉市の地区公民館は、指定管理者制度を導入している。本市は、現在の運営形態のままとするのか。指定管理者制度を導入について、どう考えているのか。

【答弁要旨】

（追及５）地区公民館は、平成２０年に鳥取市自治基本条例が制定され、コミュニティ活動の拠点施設という位置づけが加わり、社会教育のみならず、地域づくりの拠点としても重要な機関となりました。持続可能な地域づくりを進めるための「学び」や「人づくり」が、より一層求められているものと認識しています。教育委員会としては、地域の社会教育の振興という機能の向上を図るとともに、社会教育を基盤とした住民自治の仕組みづくりが必要であると考えています。そのためには、地域の実情に合った公民館の運営形態が選択できることが大切と考えます。地区公民館への指定管理者制度の活用も、その選択肢の一つであると考えています。

【対応方針・進捗状況】	検討中	対応中	(対応済)

◆ **対応方針**

◆ **進捗状況**

◆ **報 告 日**　令和元年６月２８日(６月定例教育委員会)

鳥取市議会〔一般質問〕　教育長・副教育長答弁 対応方針等 概要

市議会名	令和元年６月定例会			
議 員 名	米村　京子		担当部局	教育委員会
会 派 名	会派未来ネット		担 当 課	文化財課
質問・答弁月日	令和元年６月　日			
質問形態	代表質問	個別質問	登壇	追及
質問事項	**2 久松山周辺の環境について** **鳥取城跡の石垣の安全性について**			

【質問要旨】

久松山の石垣について、毎日山頂へ上がる人の頭上の石垣にネットが張られ今にも崩れそうで危険な場所があります。随所に台風の傷跡もあり、優先順位があると思いますが、どのような計画になっているのか伺う。

【答弁要旨】

鳥取城跡の石垣については、築造以来、古くて約400年、新しくても約150年程度が経過しており、劣化しているところも少なくありません。本市としては、史跡指定2年後の昭和34年（1959年）以来、これらの石垣の保存修理に継続して取り組んでおり、二ノ丸や天球丸の石垣の修理を進めています。山上の丸についても、昭和４４年から４５年にかけて補修や環境整備を行いました。しかしながら、昭和１８年の鳥取大震災で崩壊した部分をはじめ、劣化している石垣も少なくないため、落石防止ネットの設置や一部の立ち入りを禁止するなど、安全確保に努めているところです。従いまして、引き続き経過観察に努めるとともに、将来的な史跡整備を視野に入れ、必要に応じた対策を行って参ります。

【対応方針・進捗状況】	検討中	対応中	対応済

◆ **対応方針**

◆ **進捗状況**

◆ **報 告 日**　令和元年６月２８日(６月定例教育委員会)

鳥取市議会〔一般質問〕　教育長・副教育長答弁 対応方針等 概要

市議会名	令和元年６月定例会		
議 員 名	勝田　鮮二	担当部局	教育委員会
会 派 名	会派未来ネット	担 当 課	生涯学習・スポーツ課
質問・答弁月日	令和元年６月２４日		
質問形態	代表質問　(個別質問)	登壇	(追及)
質問事項	**2 河川敷スポーツ広場の災害復旧について** **（3）市民スポーツ広場及び千代川倉田スポーツ広場の全面芝生化の課題について**		

【質問要旨】

（追及３）野球場について全面芝生化を行うと、内野を走った際に芝につまづいたり、また芝がはがれ段差ができ、転倒してケガをする可能性が高い。特に子供の場合は、このような危険性が高いと考えるが、それでも芝生化することについて市長及び教育長に考えをうかがいたい。

【答弁要旨】

（追及３）冠水被害のたびにグラウンドが使用中止となり利用者にご迷惑をおかけしていましたが、グラウンドの芝生化により早期の復旧が可能となり、施設の利便性は向上するものと期待しています。整備に当たっては利用者と充分に調整したうえで安心、安全に利用ができるスポーツ広場となることが重要と考えます。今後とも本市のスポーツ振興の一端を担う施設として、教育委員会としても利用促進を進めていきたいと考えます。

【対応方針・進捗状況】	検討中	対応中	(対応済)

◆ **対応方針**

◆ **進捗状況**

◆ **報 告 日**　令和元年６月２８日(６月定例教育委員会)

鳥取市議会〔一般質問〕　教育長・副教育長答弁 対応方針等 概要

市議会名	令和元年６月定例会		
議 員 名	椋田　昇一	担当部局	教育委員会
会 派 名	会派未来ネット	担 当 課	学校教育課
質問・答弁月日	令和元年６月２５日		
質問形態	代表質問　(個別質問)	(登壇)　追及	
質問事項	**１　全ての子供たちの教育保障と切れ目のない支援について** **（１）不就学、不登校、長期欠席、非識字、ひきこもりの現状と課題、取り組みについて**		

【質問要旨】

（その２）本市の小・中・義務教育学校における昨年度の長期欠席、不登校の実態について伺う。
（その３）本市の長期欠席と不登校の状況について、国や県との比較と近年の傾向と特徴を尋ねる。
（その４）長期欠席や不登校にはどのような課題があり、どのように取り組まれているのかを伺う。

【答弁要旨】

（その２）まず、長期欠席（病気や不登校、家庭事情等さまざまな理由で年度間に連続または断続して30日以上欠席があった）の児童生徒の状況ですが、平成30年度は小学校135人、中学校249人、義務教育学校10人で、中学校は増加傾向、小学校は大きく増えております。
　次に、長期欠席の中で「不登校」に分類される児童生徒の人数と出現率ですが、義務教育学校前期課程を含む小学校は74人で0.8%、義務教育学校後期課程を含む中学校は193人で4.0%、そのうち90日以上欠席しているのは小学校33人、中学校120人、そして、出席日数が10日以下は小学校が5人、中学校が29人、出席した日が0日だった児童生徒は小学校4人、中学校が11人でした。
（その３）平成29年度の不登校児童生徒の出現率は、市、県、国ともに小学校は0.5%で横並び、中学校は本市では4.0%、県3.1%、全国3.4%で、本市の中学校は国や県に比べて高い傾向が続いています。不登校の出現率は、ここ数年全国的に小中学校とも上昇傾向にあります。
　同様に、長期欠席についても、小学校は市、県、国は1.1%で横並び、中学校は本市が4.9%、県4.3%、全国4.5%でやや高い傾向にあります。
（その４）課題としては、学校、家庭、本人あるいは社会の様々な要因が複雑に絡み合い、学校だけでは解決できないケースが増えてきていること、また一人一人の様相も異なるため、多様な対応が必要になってきていることなどが挙げられます。そのため、これまで以上に関係機関や専門家を交えた連携協議が必要となってきております。
　例えば、医療や福祉、心理などの専門性が求められるケースでは、要保護児童対策地域協議会をはじめ、専門機関と一緒になってその家庭や児童生徒を支援しています。
　また、学校では、未然防止とともに、児童生徒の不安や悩みに早く気づき、課題や問題が深刻化しないうちに支援を行っていくことを重点にしております。
　教育委員会としても、各学校において学校不適応の兆しを把握するための体制づくりを支援するとともに、スクールソーシャルワーカーを増員し、学校からの相談を受けて適切な支援につなげられるよう現在取り組んでいるところです。

【対応方針・進捗状況】	検討中	(対応中)	対応済

◆ **対応方針**

◆ **進捗状況**

◆ **報 告 日**　令和元年６月２８日(６月定例教育委員会)

鳥取市議会〔一般質問〕　教育長・副教育長答弁 対応方針等 概要

市議会名	令和元年６月定例会		
議 員 名	椋田　昇一	担当部局	教育委員会
会 派 名	会派未来ネット	担 当 課	学校教育課
質問・答弁月日	令和元年６月２５日		
質問形態	代表質問　(個別質問)	(登壇)　追及	
質問事項	**１　全ての子供たちの教育保障と切れ目のない支援について** **（１）不就学、不登校、長期欠席、非識字、ひきこもりの現状と課題、取り組みについて**		

【質問要旨】

（その５）本市の学校人権教育推進プランの趣旨と概要について尋ねる。

【答弁要旨】

（その５）本プランは、児童生徒の豊かな人権感覚を育み人格形成の基礎を培うために、学校での人権教育がしっかりと推進されるよう、本市の学校人権教育の方針を示し、どの学校においても児童生徒の実態に合わせた具体的・組織的な取組を推進することをその趣旨としています。

概要としましては、現在の子どもたちの人権をめぐる状況を踏まえ、本市の学校人権教育がめざすものや大切にしたい側面等について示しております。さらに、実際取り組んでいく際の手順や留意点について、どのように目標設定をし全体計画・年間指導計画を作成していくか、指導方法の工夫、取組についての点検・評価の仕方、職員研修のあり方を具体的に示し、子どもたちにつけたい資質・能力が育まれるよう構成しております。

【対応方針・進捗状況】	検討中	対応中	(対応済)

◆ **対応方針**

◆ **進捗状況**

◆ **報 告 日**　令和元年６月２８日(６月定例教育委員会)

鳥取市議会〔一般質問〕　教育長・副教育長答弁 対応方針等 概要

市議会名	令和元年６月定例会		
議 員 名	椋田　昇一	担当部局	教育委員会
会 派 名	会派未来ネット	担 当 課	学校教育課
質問・答弁月日	令和元年６月２５日		
質問形態	代表質問　(個別質問)	登壇	(追及)
質問事項	**１　全ての子供たちの教育保障と切れ目のない支援について** **（１）不就学、不登校、長期欠席、非識字、ひきこもりの現状と課題、取り組みについて**		

【質問要旨】

（追及１）平成３１年２月定例会にて「乳幼児健診未受診者、未就園児、不就学児等の緊急把握」において報告の時点では１名、その後２名の存在を確認し、６月１日時点では３名だったと岩井部長が答弁している。これはどういうことなのか、内容・経過について明確に時系列で答弁いただきたい。

【答弁要旨】

（追及１）平成３０年の厚生労働省「乳幼児健診未受診者、未就園児、不就学児等の緊急把握」において、平成３０年６月１日時点で本市に住所登録をしている児童における不就学児の把握状況について、こども家庭相談センターより８月２２日に照会がありました。その際、教育委員会は就学義務のある児童について「該当なし」と８月末に報告しましたが、その後、平成３１年２月末に議員にご指摘いただき、再度調査対象を確認したところ、就学義務のない外国籍の児童を含むことがわかり、２名だったと正確な日にちはわかりませんが３月初旬に子ども家庭相談センターへ修正報告をしました。これに基づいて、岩井部長が平成３１年２月議会にて先に述べられた内容の答弁をされましたが、その２名については出国していることが３月初旬に判明し、これらについては安否が確認できているため報告に含めなくてもよいと国の回答がありましたので、教育委員会としましては、「平成３０年度の不就学児童生徒はなかった」と答弁したということです。

【対応方針・進捗状況】	検討中	対応中	(対応済)

◆ **対応方針**

◆ **進捗状況**

◆ **報 告 日**　令和元年６月２８日(６月定例教育委員会)

鳥取市議会〔一般質問〕　教育長・副教育長答弁 対応方針等 概要

市議会名	令和元年６月定例会		
議 員 名	椋田　昇一	担当部局	教育委員会
会 派 名	会派未来ネット	担 当 課	学校教育課
質問・答弁月日	令和元年６月２５日		
質問形態	代表質問　(個別質問)	登壇	(追及)
質問事項	**１　全ての子供たちの教育保障と切れ目のない支援について** **（１）不就学、不登校、長期欠席、非識字、ひきこもりの現状と課題、取り組みについて**		

【質問要旨】

（追及２）文科省の平成２８年度「日本語指導が必要な児童生徒の受入れ状況等に関する調査」において、日本語指導が必要であるにもかかわらず、学校において日本語指導など特別な指導を受けていない児童生徒は、本市の小中学校でそれぞれ何人であったか。
（追及３）この調査で日本語指導が必要な児童生徒とはどういう児童生徒のことを言っているのか説明するとともに、本市の小中学校において、日本語指導など特別な指導を受けていない児童生徒についてどう考えるのか。教育長の所見を伺う。

【答弁要旨】

（追及２）本調査は、平成２８年５月１日時点を基準としたものですが、日本語指導が必要な児童生徒は、小学校１１人、中学校９人で、そのうち本市の事業を活用して日本語指導など特別な支援を受けた児童生徒は、小学校４人、中学校６人でありました。よって、支援を受けていない児童生徒は、小学校７名、中学校は３名でありました。
（追及３）該当項目が、２つあります。
１つ目は、日本語での日常会話が十分にできない者。
２つ目は、日常会話ができても、学年相当の学習言語能力が不足し、学習活動への参加に支障が生じている者、となっております。
　ただし、外国籍の児童生徒においても、日本語指導が必要とならない児童生徒も存在します。逆に、日本国籍を取得している児童生徒でも日本語指導を必要とする児童生徒も存在します。
　いずれにしても、言語によるハンデは、子どもたちの学習の習熟に影響するため、適切な支援等が必要であると考えます。

【対応方針・進捗状況】	検討中	(対応中)	対応済

◆ **対応方針**

◆ **進捗状況**

◆ **報 告 日**　令和元年６月２８日(６月定例教育委員会)

鳥取市議会〔一般質問〕　教育長・副教育長答弁 対応方針等 概要

市議会名	令和元年６月定例会		
議 員 名	椋田　昇一	担当部局	教育委員会
会 派 名	会派未来ネット	担 当 課	学校教育課
質問・答弁月日	令和元年６月２５日		
質問形態	代表質問　(個別質問)	登壇	(追及)
質問事項	１　全ての子供たちの教育保障と切れ目のない支援について （１）不就学、不登校、長期欠席、非識字、ひきこもりの現状と課題、取り組みについて		

【質問要旨】

（追及４）日本語指導が必要な生徒の高校進学の実態（Ｈ２８卒業）について伺う。

【答弁要旨】

（追及４）平成２８年度における高校進学を控えた中学生で日本語指導が必要な生徒の数は把握しておりません。ただ、本市の事業で日本語指導を受けた生徒のうち、平成２８年度の中学校卒業生は２名であり、２名とも高校に進学しております。

【対応方針・進捗状況】	検討中	対応中	(対応済)

◆ **対応方針**

◆ **進捗状況**

◆ **報 告 日**　令和元年６月２８日(６月定例教育委員会)

鳥取市議会〔一般質問〕　教育長・副教育長答弁 対応方針等 概要

市議会名	令和元年６月定例会		
議 員 名	椋田　昇一	担当部局	教育委員会
会 派 名	会派未来ネット	担 当 課	学校教育課
質問・答弁月日	令和元年６月２５日		
質問形態	代表質問　(個別質問)	登壇	(追及)
質問事項	**１　全ての子供たちの教育保障と切れ目のない支援について** **（１）不就学、不登校、長期欠席、非識字、ひきこもりの現状と課題、取り組みについて**		

【質問要旨】

（追及５）不登校やひきこもりとその家族などへの支援とともに、不登校やひきこもりとその家族に生じている実態につながる社会への諸課題に目を向けることも欠いてはいけない。先日、児童相談所設置に係る金田議員の質問に「まずは根本的な解決策を考える必要がある」と答弁されました。不登校問題とひきこもりの問題をどうとらえ、どんな取り組みをしているのか、教育長に尋ねる。
（追及６）平成２９年６月定例会一般質問では「すべての児童生徒が教育を受ける機会をしっかり保障していくシステムを構築するよう努めていく」「社会的自立が果たせるまで市全体で支援することが大切」と答弁がありました。今回の問答を踏まえ、困難な状況にある人を社会から孤立させない一人一人のニーズへ応じた切れ目のない支援についての所信を教育長に伺う。

【答弁要旨】

（追及５）ひきこもり当事者の中には不登校経験者が多数含まれていると考えております。「不登校のうち２割程度はひきこもりに移行する。そして、この２割の移行グループが、ひきこもりの６～８割程度に相当する」（井出草平著「ひきこもりの社会学」2007年世界思想社）という見解があり、このことをひきこもりの支援者の方々は実感として持っておられると聞いてもおります。教育委員会としましては、先に述べたような学校の取組を支援して不登校の未然防止に努めるとともに、不登校や長期欠席の生徒について家庭と連携した上で高等学校や専門機関での指導や支援につなげる働きかけを継続して行っております。また、学校の教育相談コーディネーターとスクールソーシャルワーカーとの連携を密にして、学校に行きづらい状況にある児童生徒について、その子の不安や困り感に適切に支援して不登校や長期欠席に至らないよう取り組んでおります。
（追及６）本市では、児童生徒にとっての「居場所づくり」とともに、全ての児童生徒が活躍できる場を設定して人のために役に立ったという「自己有用感」を育みながら、「自治力」（主体的に生きる力）の育成を図っております。また、子ども同士や子どもと大人の「絆」を深め、社会の中で見守られている、必要とされているということを子どもたちが実感できるよう取り組みを進めているところです。一方で、悩みや不安を抱える子どもたちに対しては、アンケート等を使いながら把握に努めるとともに、教育相談体制の充実を図って対処しております。そして、悩みが深く、複雑な背景を抱えている状況があれば、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー、児童相談所、こども家庭相談センター等と連携してその解決に向けて子どもや家庭を支援しております。このような取組を進める中、困難なケースを目の当たりにすればするほど、福祉と教育の分野が一緒になって支援することの重要性を感じております。今後も、困難な状況にある人々が本来持っている能力や可能性を最大限に伸ばし、社会の中で安心して暮らしていくため、一人一人のニーズに応じた教育と切れ目のない支援の実現を目指していきます。

【対応方針・進捗状況】	検討中	(対応中)	対応済

◆ **対応方針**

◆ **進捗状況**

◆ **報 告 日**　令和元年６月２８日(６月定例教育委員会)

鳥取市議会〔一般質問〕　教育長・副教育長答弁 対応方針等 概要

市議会名	令和元年６月定例会		
議 員 名	椋田　昇一	担当部局	教育委員会
会 派 名	会派未来ネット	担 当 課	学校教育課
質問・答弁月日	令和元年６月２５日		
質問形態	代表質問　(個別質問)	登壇	(追及)
質問事項	１　全ての子供たちの教育保障と切れ目のない支援について （２）放課後児童クラブにおけるインクルーシブの推進について		

【質問要旨】

（追及７）放課後児童クラブのインクルーシブの推進について、市の方針を伺う。
（追及９）インクルーシブ推進施策として、どのような事業を実施しているのか。そして、それにはどういう課題があるのか伺う。
（追及10）支援を適切かつ効果的に推進するためには、実態把握をすることが不可欠である。入級の有無だけでなく、支援員の実態や、そのための環境整備・条件整備など諸課題があるように聞いている。さらなる児童クラブのインクルーシブの推進について、所見を伺う。

【答弁要旨】

（追及７）本市の放課後児童クラブは、保護者が就労等で昼間家庭にいないものにつき、発達段階に応じた主体的な遊びや生活が可能となるよう、児童の自主性、社会性及び創造性の向上、生活習慣の確立を図り、もって児童の健全育成を図ることを目的としています。そのため、入級児童の学年、性別、特別な配慮の有無に関わらず、包括的に健全育成に繋げるよう取組んでいるところです。
（追及９）本市の放課後児童クラブでは、障がいを有する児童２人の入級に対し、専任支援員１人の加配を行うこととしています。この専任支援員が、配慮が必要な児童に目を届かせることで、全ての児童の健全な育成に繋げていただくよう取組んでいるところです。また、トイレの改修やスロープを設置する等、入級児童に応じた施設改修を行ったり、今年度は、放課後児童クラブアドバイザーを導入し、児童や支援員の相談や、専門的な助言を行っているところです。課題としては、いずれの放課後児童クラブでも、専任支援員をはじめとする支援員の確保が難しいこと、また、クラブの実施場所によっては、十分な施設整備が行えないなどがあると考えています。
（追及10）支援の推進には実態把握が必要であり、その実態に児童クラブが対応できるかも重要です。インクルーシブの推進については、本市の児童クラブでは、平成２９年度から、新たに入級する児童には、児童の個性（得意なこと、苦手なこと）、アレルギーや持病など配慮すべき内容等、利用者があらかじめ伝えておきたい児童の様子等を「放課後児童クラブ就学移行支援シート」により事前に把握し、支援員と保護者で十分相談したうえで、入級を行うなど、取り組みを進めています。また、障がいのある児童を受入れているクラブには、ＡＥＤの設置や静養スペースを確保するなどの施設整備はもとより、支援員に対して特別な支援を要する児童への理解や合理的配慮についての研修を行うとともに、本年度から、放課後児童クラブアドバイザーを１名配置し、専門的な助言に加え、学校、福祉機関等との連携が図れるよう取組んだり、巡廻による個別相談も行っています。今後も、放課後児童クラブで抱える課題の把握に努め、児童一人一人の健全育成に繋がるよう、取組みを進めていきます。

【対応方針・進捗状況】	検討中	(対応中)	対応済

◆ **対応方針**

◆ **進捗状況**

◆ **報 告 日**　令和元年６月２８日(６月定例教育委員会)